

2018年4月16日(月)

有明新報 7面



音楽会を締めくくった「第九」の合唱

2カ月に1度、ベートーベンを聴く会として催されていた「ヤギと音楽会」の最終回が14日、大牟田文化会館大ホールで開かれた。バリトン歌手の土屋広次郎さんと共に、来場者が「第九」の略称で知られるベートーベンの交響曲第9番を合唱。地元ゆかりの演奏家のアンサンブルや音楽と工学のコラボ、マルシェなども楽しんだ。

イベントはクラシック音楽の普及に取り組むフランシユ(松尾真貴代表)が主催。自然と共に歩んだ作曲家、ベートーベンを中心に据えたプログラムで昨年8月から、大牟田市上内の「橘香園」を会場に開催。フィナルとなる第5回では、大自然の中で「第九」を歌ってもらおうと、野外コンサートを予定していたが、雨天が予想され、同館に会場を変更した。

この日は「第九」の公開リハーサルで開幕。毎回、フェリス女学院大学音楽学部教授の黒川浩さんと地元ゆかりの若手音楽家らが出演しており、ミュージカル&ピアノ、フルート&ピアノなどのアンサンブルや、3人のピアニストによる6手連弾を披露。音楽と工学のコラボとして、有明高専の石川洋平さん、清水暁生さんがアンプの音の違いを聞き比べる「音の格付けクイズ」も行った。最後は約30人が壇上に立ち、

「第九」を高らかに合唱

ベートーベン中心に ヤギと音楽会が閉幕

大牟田

土屋さんの指揮で「第九」を合唱。高らかに声を響かせ、歌う喜びを堪能していた。

ホワイエでは手作りのパ

ンやスイーツ、アクセサリ、革製品、地元の新鮮野菜などが並ぶマルシェも開かれ、にぎわいを見せた。

(河野 美緒)